米子市埋蔵文化財センターたより

第４７号　　２０２２年１２月

伯耆町小町越城野原第 11 遺跡の発掘調査－発掘調査の開始－

当財団では、建設発生土造成工事に伴い伯耆町小町に所在する小町越城野原第１１遺跡の発掘調査を 11 月から実施しています。

遺跡は、越敷山塊に位置し、調査対象地は、西から東へ伸びる２つの丘陵と、これらに挟まれた谷部です。調査は、令和４年度から５年度にかけて実施し、今年度は主に谷部の調査を行っています。

調査地は、これまで畑が耕作されており、谷部の堆積状況は上層に畑の客土や圃場整備時の造成土が厚く堆積し、下層に僅かに自然堆積層が堆積しています。上層の畑の客土からは古墳時代中期、奈良～平安時代の土器が多量に出土しており、隣接する丘陵には、古墳や当地域で多くみられる奈良～平安時代のものと推定される段状遺構が観察され、周辺の丘陵から削り取られた土を畑の客土として使用したと考えられます。下層の堆積層からは縄文時代晩期の突帯文土器が比較的まとまって出土していますが、明確な遺構は確認されておりません。

遺物出土状況（須恵器片・土師器壺）

発掘作業風景

１１月は天候が良く、かなり調査がはかどりましたが、１２月は天候が悪く、思うように調査が進んでいません。寒さに耐え、雨や雪でぬかるんだ地面に足をとられ、早く春が来るのを待ち遠しく思いながら調査を行っています。（高橋）

発　掘　調　査　情　報

ー　伯耆町根雨原土手下タ遺跡の出土遺物　ー

根雨原土手下タ遺跡では４月から調査を始め９月末まで現地調査を行い、12 基の集石遺構などが検出されました。出土遺物は縄文時代晩期の突帯文土器を主体に出土しており、その他に縄文時代前期、中期、後期の土器等がみられます。また石器では黒曜石の剥片、石鏃、石皿、石棒状石などが少量検出されています。このことから本遺跡は縄文時代前期から晩期にかけて縄文人が暮らしていた河岸段丘上の遺跡と考えられます。

中でも注目されるものが石棒状石で７点発見されており、そのうち一点は立てられた状態で発見されています。大型石棒は米子市青木遺跡以外に県内では類例はあまり確認されません。

石棒状石出土状況

石棒状石

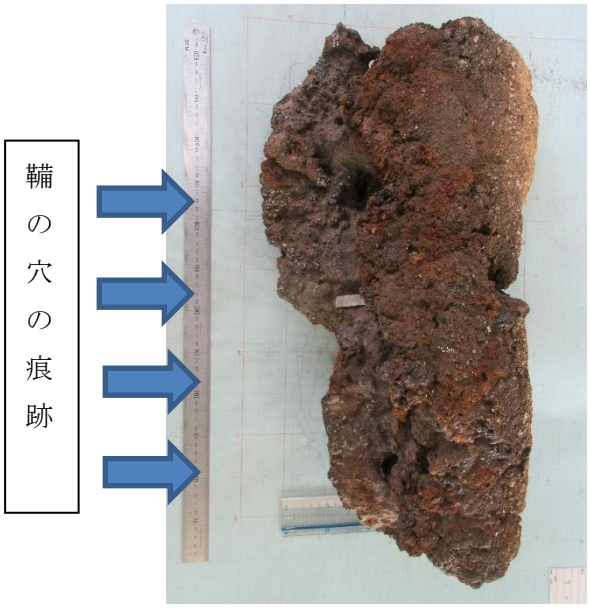
整　理　室　た　よ　り

ー福長下モノ原遺跡のたたら炉壁ー

整理室では、昨年度の調査で出土しました福長下モノ原遺跡の出土遺物の整理作業を行っています。

主な遺物は鉄滓と炉壁片ですが、炉壁片は炉の形態をしめす重要な遺物です。操業終了後、たたらの炉は鈩(けら)を取り出すために壊され炉壁片となり、鉄滓とともに廃棄されます。

出土した炉壁片は、熱で溶け薄くなって鉄滓が張り付いていますが、炉のコーナーを表す湾曲部位や鞴（ふいご）の穴などが観察でき、炉の復元の参考となります。これらの形から、炉の時期も推定することが出来ます。(小原)



遺跡シリーズ　三崎殿山古墳　（みさきとのやまこふん）

三崎殿山古墳は、南部町三崎字北山崎の標高 80m の独立山稜の殿山の頂上に立地する前方後円墳です。

墳頂からは、法勝寺川中、下流の法勝寺平野が望め、古墳立地として絶好の場所です。

古墳は全長 108m、後円部径 58m、高さ 8m、前方部幅 35m、高さ 8mの規模を持つ柄鏡形で西伯耆最大規模の古墳です。後円部の東側の一部が山道のため削られていますが、ほぼ墳丘全体の形をよく残しており、後円部は二段築成されていたと考えられます。埋葬施設は不明ですが、埴輪か土師器と推定される土器片が少数採取されています。

古墳の規模や墳形から古墳時代前期末（４世紀末）の時期の古墳と考えられており、古墳の被葬者は普段寺１号墳や浅井 11 号墳などの法勝川流域を支配した首長系列の豪族であったと考えられます。

（小原）

三崎殿山古墳図（新鳥取県史より）

コラム　　発掘された遺物⑥　　－弥生時代中期の土器－

弥生時代中期は、２千５百年前から千８百年前と考えられています。

弥生時代中期前葉の土器は、櫛描きの多条平行沈線文等を主体としています。

中期中葉の土器は、櫛描きの直線文、波状文、格子文、貼付浮文、指頭圧痕文等と装飾性が増してきます。また、壺や甕以外の高坏など器種の多様性が増しています。

中期後葉の土器は、凹線文が盛行し、中期中期のような装飾の豊かさが失われてしまいます。（小原）

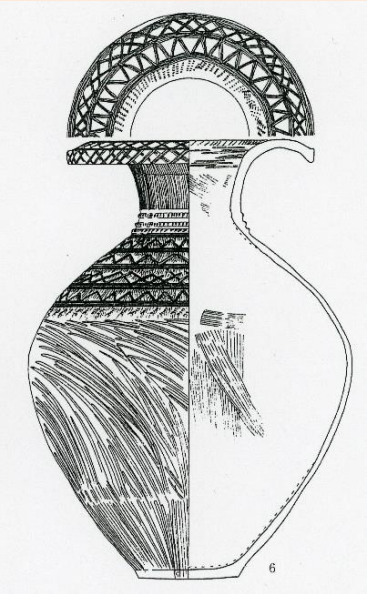


図　伯耆町下山南通遺跡出土の中期土器　（新鳥取県史より）

センター・資料館日誌

9 月 24 日（土）米子市文化財団フェスティバルが伯耆古代の丘公園で行われ「石庖丁づくり」を出店。

9 月 25 日（日）第２回史跡ガイドウォーク「手間要害跡」を開催した。
講師　南部町　岡田善治氏

10 月 15 日（土）第 2 回考古学講演会「西伯耆出土の中世陶磁器」を開催。
講師　米子市　佐伯純也氏

11 月 13 日（日）青谷かみじちフェスティバルに「石庖丁づくり」を出店。

11 月 19 日（土）第 2 回考古学講演会「西伯耆の中世城館跡」を開催。
講師　埋文センター高橋浩樹

11 月 27 日（日）第３回史跡ガイドウォーク「月山富田城跡」を開催した。
講師　安来市　平原金造氏

編 集 後 記

大山の頂が白く輝き、冬本番を示す季節となりました。コロナウイルス拡散の第 8 波となっていますが、職員は寒さをいとわず現場作業に出かけて頑張っています。

発行日　令和４年１２月２２日
発行者　米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電話　０８５９－２６－０４５５
E メール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp